ましきまちづくりスクール #01

わがまちとの距離を縮める 現場を「知る・聞く・歩く」

現場主義の考え方
現場を知る大切さ
現場での出会い

「益城町」の宝とは

10/02 水

13:00 ～ 17:00

主催：益城町地域おこし協力隊
：益城町にぎわいづくり WG

登壇者プロフィール

西村 博則氏 / 益城町長

熊本県益城町出身。熊本工業高校卒。1 年間の造船会社勤務を経て 76 年に益城町役場　に入庁。保険課長、健康づくり推進課長を経て、2014 年 4 月の町長選で初当選した。

福永 和子氏 / (株) 福永事務所 代表

編集プロダクションを主宰。情報誌の編集をはじめ、コラムやエッセイも手掛ける。テレビのコメンテーターとしても活動。「広報ましき」のアドバイザーも務める

事業紹介者プロフィール

奥村 敬介氏

益城町復興整備課

宮部 暁彦氏

熊本県復興事務所

Program

13:00 ― 14:00 ― 15:00 ― 16:00 ― 17:00

トークセッション

事業レク

意見交換・ふり返り

トークセッション風景

現場ってなんだろう？

第 1 回目は「現場を知る」が議論のテーマ。西村町長、広報ましき監修に携わる福永和子さんと深く議論！地域もデスクもどちらも現場である、と結論からスタートしたトークセッション。地域の想いや怒りを汲み取るには、現場がわからないと目線を合わせることができないとゲストから導入がありました。

大事なのは興味を持つこと

現場と向き合うには？という問いに対して、興味を持つ＝前例踏襲に縛られない！という仕事のヒントが語られました。どうしても定型の会議が多くなりがちな業務。そんな環境について、「知恵を出すのは大変だが面白いところ」と西村町長からの激励の場面も。

加えて、「結果だけを真似しない、そこに至るまでのプロセスが重要である」と地域に飛び込んだ経験を持つ西村町長ならではのコメントをもらい、会場に向けて温かくも仕事に向き合ううえで重要な視点が提示されました。

また、福永さんからは「現場に出向くのは、データからは見えない“ 地域の文化 ” に出会う可能性がある」と現場の醍醐味に触れ、「先入観をもたずに仕事をする」「現場のチカラ、ニオイを感じる嗅覚を持つ」と仕事の哲学についても教えていただくことができました。

地域の宝を発見する

地域には魅力がたくさんある、とお二人とも意見が共通。ただ、当たり前過ぎて気付けないことも多い。気づくためには、自ら体験し感じるもの、胸にくるものを見つける、話す、書き留めるなどの具体的なアドバイスを以て答えていただいています。

まちづくりスクール参加者

わがまちとの距離を縮めるために何から始めるのか？

トークテーマに応答する知見は、以下の内容です。

- 想像力を育てる＝知る
- 先入観を持たない＝聞く
- とにかく行ってみる・参加してみる＝歩く

会場からも活発に意見交換や質問があり充実した時間となりました。

14:30～町事業レクチャー

益城町復興整備から総合計画、中心市街地活性化計画などの上位計画と地域活動について紹介があり、夢と具体の擦り合わせの実態についてレクいただきました。

15:30～復興事業レク

町事業の紹介

県復興事務所から熊本地震以後の土地区画整理事業、県道 4 車線化について紹介がありました。暮らしと公的機能の両輪を回す内容について議論を深めました。

16:30～ふり返り WS

スクール参加者による当日のふり返りを実施しています。テーブルを 2 つに分け、学びを共有した後、発表していただきました。

県復興事務所事業の紹介

参加者とのやり取りの一面

スクール参加者によるふり返り